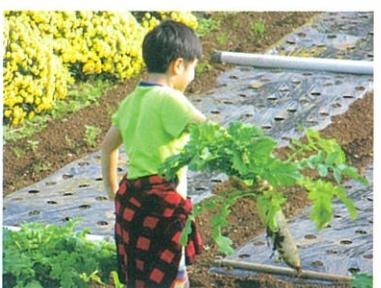




矢倉沢地域おこし委員会 (南足柄市)

自然体の取組みで大学生と交流



■イノシシが出るような地域をどう活性化する?

矢倉沢地域おこし委員会は、南足柄市から、高齢化と人口減少が進む北足柄地区を活性化しようともちかけられ、2009年に誕生しました。

地元では、「イノシシが出るような地域で活性化は難しい。イノシシ対策が先だ」という意見も多く、当時自治会長だった顧問の植田 勇次さんも困惑しましたが、地域を掘り下げることは喫緊の課題であると思い、取り組み続けてきました。

■委員会が続けたまつりを地元有志が引き継ぐ

手探りで始めた最初の活動が「ざる菊まつり」。神奈川県西部を中心に栽培されているざる菊

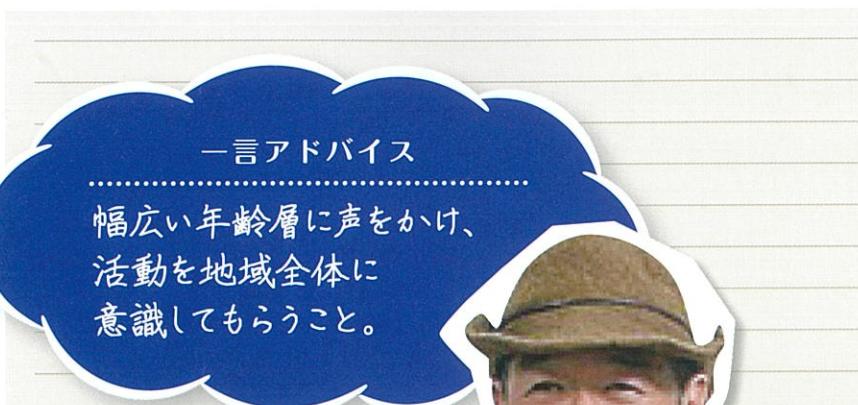
(群生して咲く姿がざるを伏せたように見える)を、地域の花グループが荒廃農地を利用して栽培を始めたので、これを全面に出したまつりを開催しました。最大2万人の来場者を集めた祭も、10年続けるとスタッフの高齢化や農家の負担、連作による土壤障害が出て、いつたん終了しました。すると、2019年からは地元の有志が「ざる菊ウイーク」として活動を引き継いでおり、委員会がきっかけとなって新しい活動、人のつながりが生まれています。



期購買、ジビエ料理、ペンション農泊、温泉復活、農産物ネット販売、足柄茶ケーキ、ご褒美サプライズ配達、等々の自由な発想が並んでいました。

これを形にしていくのが地域おこし委員会のこれから課題といえるのですが、まずは自分たちのできる範囲で、無理なく続けることが大事だとしています。2019年度から委員長になった杉山 徹さんは、「やらねばならないと固執することなく、ゆるく物事をとらえること

にしています。とりあえずやってみて、問題があればどうでき



矢倉沢地域おこし委員会
委員長 杉山 徹さん



成功のコツ

- ・とりあえずやってみて、問題があればどうできるのか別の方策を考えてみる
- ・一人の力に頼らず、共感できる仲間たちと始める
- ・自分たちのできる範囲で無理なく続ける

るのか別の方策を考えてみようと思っています」と肩の力を抜いた自然体で構えています。

都会の大学生とのコラボレーションがどういう形に発展していくのか、楽しみな矢倉沢地域おこし委員会の今後です。

